

平成22年度 八洲学園大学国際高等学校事業計画書

1. 施設の概要

(1) 所在地

学校名	所有区分	郵便番号	学校(会場)所在地	電話番号	FAX番号
八洲学園大学国際高等学校	法人所有	905-0207	沖縄県国頭郡本部町備瀬1249	0980-51-7711	0980-48-4115

2. 学生(生徒)の概要

(1) 設置課程・学科・収容定員・在籍者数一覧(平成22年3月1日現在)

設置課程	設置学科	入学定員 (人)	①収容定員 (人)	②正科生 在籍者数 (人)	③技能連携 在籍者数 (人)	④聴講生数 (人)	収容率 (%) $(②+③) \div ① \times 100$
通信制課程 (広域)	普通科	※※※※※※	5000	884	0	1	17.68

(2) 平成22年度入学者数・卒業者数・転学者数・退学者数・除籍者数予測一覧

	入学者数 (途中転編含む)	卒業者数	転学者数	退学者数	除籍者数	増加予測人数
正科生	350	260	9	8	63	20
聴講生	2					

3. 教職員関係

(1) 平成22年度管理職の概要

職名	氏名	備考
校長	岩井 貴生	新任
教頭	中村 成希	留任

(2) 平成22年度教職員の概要（平成22年3月1日現在）

		合計（人）
教 員	本務	8
	非常勤	8
職 員	本務	3
	兼務	0

↓ ↓ ↓

		合計（人）	沖縄	横浜
教員	本務	男性（４） 女性（４）	7	1
	非常勤	男性（２） 女性（６）	8	0
職員	本務	男性（３） 女性（０）	2	1
	兼務	男性 女性		

平均年齢は教員 37.1 才、職員 37.3 才である（平成 22 年 3 月 1 日現在）

4. 事業の概要

（１）事業の概要

本学の平成 21 年度入学者数は減少した。この原因を単に高校入学年齢人口の減少、通信制高校数の増加、経済不況などといった不可抗力的要因のみに求めるのではなく、20 年度と 21 年度に掲げた「現状維持」という保守的学校経営にあったことを省み、22 年度は「目に見える」改革に着手することを試みる。入学者数減少に歯止めをかけるために「何をすべきか」ということを明確に示した学校事業と学校経営を展開していきたい。

（２）主な事業の目的・計画及びその進捗状況

平成 22 年度は、e ラーニングコンテンツの見直し、レポート内容の改善、補助教材の開発、携帯電話や PC を使用した学習システムの開発、学校資料（パンフレット、募集要項、学校要覧など）のリニューアル、高大連携の具体化、進路指導の強化、高認試験希望者への対応強化、学則変更（科目追加）などといった教育改革に着手する。また、組織図も含めた校務分掌の見直しといった組織改善も並行して実施する。生徒募集に関しては、WEB プロモーションのあり方を再度検証し、入学検討者の導線を分析できるような広報ツールを確立し、効果の低いところへの広報費捻出を最低限に留めるよう努めたい。また、サポート校の開拓も今まで以上に積極的に行いながら生徒確保に繋げていきたい。上記以外の計画としては、開講 10 周年記念行事を実施すると同時に、地域貢献や地域交流も積極的に参加し、地域全体で学校を支えてもら

える関係を地元沖縄で築いていく予定である。

① 主な事業の計画

年度	事項	概要	進捗状況
22～	eラーニングコンテンツの見直し	新学習指導要領との照合、映像と音質の改善	
22～	レポート内容の改善	新学習指導要領との照合、難易度の再考と問題の改訂	
22～	レポート作成のための補助教材の開発	提出率、合格率の向上を目的とした補助教材の作成	
22～	携帯電話や PC などによるレポート作成及び提出可能なシステムの開発	他校でも既に実施されているインターネットや携帯によるレポート学習の確立	
22～	学校資料のリニューアル	広報戦略と連結したパンフレット、アンケート、願書、募集要項、学校要覧などといった学校資料の改訂	
22～	高大連携の具体化	「特別活動」などでの大学教育の応用	
22～	進路指導の強化	「総合学習」における進路指導授業の導入	
22～	高認試験希望者への対応強化	聴講生（高認試験希望者）向けの時間割作成	
22～	学則変更	新科目（日本語基礎）の追加	
22～	組織図と校務分掌の見直し	組織編成と主任制度の強化による仕事の効率化	
22～	地域貢献・地域交流	10周年記念行事（同窓会）の開催	
22～	WEB プロモーションの見直し	WEB 戦略の紐付け、導線の確立、サイト及 LP の修正	
22～	サポート校の開拓	小規模塾や高等専修学校などのサポート校募集活動	

② 施設・設備の整備計画

年 度	事 項	事業規模等	事業費	財 源	実施時期	備 考
22～	校舎宿舎の修繕 (宿舎壁、宿舎エアコン修理、ゴミ捨場、教室棟手摺のサビ止め、ペンキ塗装、教室棟階段部分罅割修繕、宿舎ベッドの修繕、宿舎及び校舎手洗器部品取替など)	小規模	335490	管理修繕費	未定	
22～	ボイラー部品交換	中規模	480000	管理修繕費	未定	
22～	バスドアモータの取替、バスエアコンガスの補充	中規模	500000	管理修繕費	未定	
22～	PC、PC周辺機、印刷機などの設置	中規模	800000	管理修繕費	未定	

③ 授業料変更等

年 度	事 項	概 要
	計画なし	

③ 卒業生数、就業者数の見込みについて

平成22年度は、21年度ベースで見積もった結果、約260名の卒業生数を見込んでいる。また、在校生の退学、転編出を最小限に留めると同時に、入学者数を21年度比で同等以上に確保するように努める。

⑤ 生徒の就職、進学状況について

本学の進路調査は、進路アンケートに回答した者とハローワークの紹介で就職した者をベースとしており、卒業生全員の進路状況を把握していない。平成22度は生徒の就職進学状況の調査を強化し、より正確な進路状況の把握に努め、進路指導の向上に役立てたい。

⑥ 教職員採用・退職計画

年 度	事 項	概 要
2 1	退職者（校長 1 名、常勤教員 1 名、非常勤講師 1 名）	
2 2	教職員採用（1 年契約新規常勤 1 名・非常勤講師 1 名・パート 2 名）	任期制教員（有期 7 名）・、常勤講師（有期 2 名）、非常勤講師（有期 8 名） 常勤職員（有期 3 名）、パート（有期 5 名）

⑦今後の課題について

教育内容の改善と充実、施設安全性の改善と確保を最優先とすることは言うまでもなく、今後は入学者数の減少傾向を止め、出願者数を昨年度比でプラスに転ずるような学校経営を展開していくことを最重要課題とする。通信制高等学校が増加する現状において他校との差別化が求められる中で、上記に挙げた事業計画を確実に着手・進捗させ、生徒募集の増加に繋がる学校経営をする必要がある。

5. 財務の概要

2 2 年度度は、昨年度の入学者減少を考慮して支出を抑えることを念頭に置き、昨年度より縮小した総予算を編成した。昨年度の授業料収入予想を大幅に見直し、2 2 年度は入学予定者数に大幅な伸びが見られなくても黒字経営になるような財務編成を試みている。2 2 年度の財務計画では、学校施設と設備の維持と改善に大きく費用を当てている。また、教育内容の拡充を図るために研究費を大幅に増額した。教育内容と施設・設備の改善に投資し、「教育の質」を向上させることによって徴収した授業料を生徒に還元していきたい。